

肩書はなくなっても、
自分でできることを。

KASAHARA



地域おこし協力隊として小諸市に来たきっかけから、協力隊として活動した3年間、そして今後の地域おこしについて2人に話してもらった。

鴨川 小諸に来たきっかけは？

笠原 出身の小諸で美容室か

学校の先生になろうと考えていたけど、親に東京を勧められて。だけど、東京がなんとなくなじまない部分がずっとあって。前職で、南スーダンに滞在したとき、現地の人に「なぜ家族を日本に置いてここにいる」と延々と言われました。南スーダンは50年以上の紛争により、家族と過ごしたくても過ごせない人たちがいて、その声を聞いたとき、自然と小諸に帰ろうと思ったんです。鴨川さんは？

鴨川 僕は、神奈川県出身で都会大好きっ子で東京で飲食店をやるんだらうなと思ってた。ある日、お客さんに小諸ツリーハウスプロジェクトの前身のイベントで料理を

やらないかと誘われて、そのとき初めて

小諸に来て面白いと

思った。都会との違いが新鮮に思えて、

それからちよくちよく小諸に来るよう

に。地域おこし協力隊の募集もあり受けてみよう。

笠原 3年間どうでした？協力隊を卒業後、レストランを開業するって聞いているけど。

鴨川 移住定住政策の担当として市役所で働いた時間は良い経験になったね。これで協力隊は卒業になるけど、3年間であんなに人との出会い

は大切だし、レストラン開業に向けても必要な3年間だったと思う。

笠原 小諸に住んでみてどうですか？

笠原 こもろ観光局(DMO)の立ち上げは、当時は先駆的な取り組みでしたし、新しいことに率先してチャレンジし



地域おこし協力隊

Profile

笠原 光 (42)
kasahara hikaru

血液型
B 型

平成28年地域おこし協力隊として任命。観光地域づくり法人として「こもろ観光局」立ち上げの一人として活躍。得意の英語力から、世界を相手にするこもろ観光局にはなくてはならない存在に。持ち前の明るさから大勢の人に親しまれる様子は、地域にとっても欠かせない人だ。

◀こもろ観光局でインバウンドをねらったPR動画を制作。



地域に根差した3年間
地域おこし協力隊が感じた小諸と